筑波大学大学院人間総合科学研究科教育基礎学専攻『教育学論集』第5集，2009.3

国立大学におけるAO入試の実施過程と全体的特徴
－教育的視点に着目して－

デメジャン・アドレット

1．研究関心と問題所在

本研究の原点は、カザフスタンの大学入試制度が抱える諸問題の改善に寄与したいというところにある。その諸問題の中では、特に受験者の専門分野に関する知識、興味・関心の低下と、大学側が入試過程に直接に関与することができないという問題点が大きく指摘されている。こうした状況を考えれば、今後の大学入試制度においては、入試時点の学力だけでなく、大学教育に対する興味･関心、学習意欲等の学力以外の資質・能力の評価が求められる。従って、カザフスタンの大学入試制度のあり方を考える場合、諸外国における学力以外の資質･能力を評価する大学入試の実践を検討することが、有用であると考える。

先進諸国の大学入試を概観すれば表1のようになる。大学入試は、大きくは共通試験型（アメリカ合衆国、日本等）と資格試験型（フランス、ドイツ）に分類され、また大学の個別試験を課す国（イギリス、日本等）と個別試験を課さない国（アメリカ合衆国、フランス等）に分かれる。さらに、特別試験として課される学力以外資質・能力試験については、各国ともその内容は多様となっている。中でも、日本における大学入試制度においては、一般入試に対して、特別選抜が、受験生の学習意欲、興味・関心、目的意識等の学力以外の資質・能力を評価する入試となっている[1)]。また、特別選抜の中でも、学校長の推薦による推薦入試に対し、アドミッション・オフィス入試（以下、AO入試）は、大学の権限が大きく、入試過程に強く関与しているという特徴がある。上述のカザフスタンの入試の問題に鑑みれば、日本のAO入試は、学力に偏重せず、またそれ以外の資質･能

* 教育学専攻　大学院生

表1　主な先進国の大学入試制度の構造

国名	大学入試		
	共通試験 (学力調査)	大学個別試験	学力以外の資質・能力を測る試験
アメリカ合衆国	SAT、ACT AP 等	個々の大学が入学試験を行わず、高校での成績と共通試験との総合成績を選抜資料とする	PASS:分析力、問題解決能力、総合力、状況判断力等、チームワーク、コミュニケーション能力等
イギリス	統一的な大学入学資格要件はない	各大学の学科・コースごとに入学者選抜	専門性の高い試験の実施
フランス	バカロレア	原則として行われない	個別課題研究：判断力、思考力、批判力等
ドイツ	アビトゥーア試験	原則として行われない	面接：職業に関する動機及び適性、職業訓練、職業活動の種類
韓国	大学修学能力試験(CSAT)	国公立禁止	校長推薦制
日本	大学入学センター試験	後期試験、AO 入試、推薦入試	AO 入試、推薦入試：受験生の能力・適性等を多面的かつ丁寧に判断する

(荒井克弘（編著）『高校と大学の接続』玉川大学出版部、2005により作成)

力を評価し、大学主導で実施される入試であると位置づけられることから取り上げるに値すると考える。

AO 入試は、一般入試や推薦入試に比べ、早い時期から始まり、長期プロセスとなっている。この長期プロセスにおいて、大学は、出願以前の面談、スクーリングなどから、入学後の相談、カウンセリングなどまで、さまざまな場面で AO 入試の受験者と関わっている。しかしながら、この長期プロセスにわたる AO 入試の具体的な体制・方法に関する研究は、各大学の個別事例に限定され、全体的な現状に関する研究はまだ十分に蓄積されていない。

2．研究の目的

上述の問題意識を踏まえ、本研究では、国立大学における AO 入試の実施過程について、特に教育的視点に着目し、その全体的な特徴を明らかにすることを目的

とする。具体的には、AO入試の実施形態・内容を概括し、その共通点を抽出することを試みた。

また、AO入試の発想のルーツが大学教育の問題にあり、教育改革の流れがその拡大を促していることが指摘されている[2)]。換言すれば、AO入試は、大学教育の改善のために導入され、大学教育の一環として捉えられる。そこでAO入試の教育的働きかけとしては、入試が受験者の学習を左右しているという視点が重要となる[3)]。このような教育的視点から、AO入試は、入学者の大学教育を受けるのに必要な資質・能力を確保するにあたって、どのように機能しているかを分析する。

3．本研究の枠組み

既述したようにAO入試は、大学主導で実施され、早期化・長期化していることが、その特徴とされている。すなわち、大学は、AO入試の長期プロセスにわたり、さまざまな場面で受験者に接触し、入試過程を通して彼らの学習に深く関与している。したがって、本研究では、教育的視点からこの「大学－受験者」関係から成り立つ入試過程に着目し、研究目的を達成しようとした（図1）。

各大学におけるAO入試を分析するに当たって、①実施主体、②実施方法、③評価基準という分析の項目を設定した。これらの3つの観点を設定することによって、日本の国立大学におけるAO入試の実施形態の全体的な特徴を浮き彫りにすることとした。

以下、3つの分析項目について述べる。

①実施主体

日本の大学における入学者選抜の実施体制に関しては、大学教員が実施するものと考えられてきた。一方で、AO入試の実施にあたっては、選抜について高度な専門性を持つスタッフが必要とされ、アドミッション・センターといった組織が設置されている。これらのことから、実施主体という分析項目においては、学部・学科（大学教員）とアドミッション・センター（AO入試の専任教職員）を区分した。

②実施方法

実施方法の分析に際しては、AO入試の流れに沿って、情報提供（広報活動）

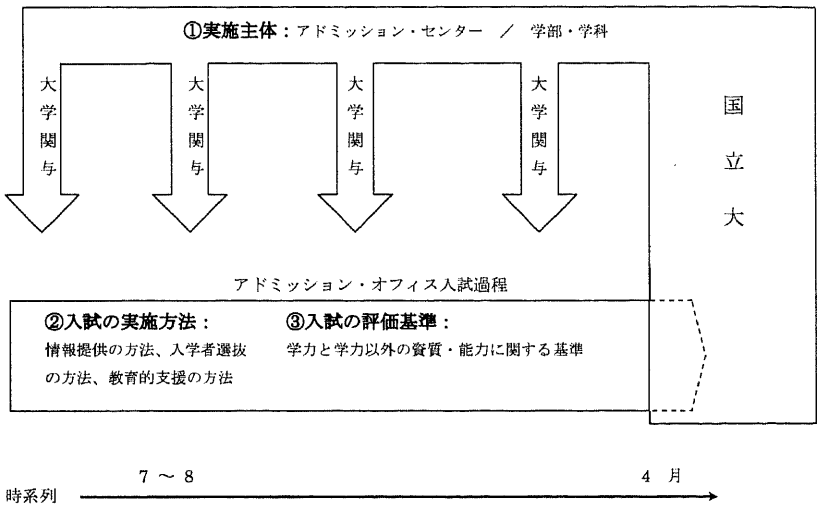

図1　研究の枠組

の方法、入学者選抜の方法、教育的支援（入学準備教育と入学後の教育的支援）の方法に区分した。具体的に、情報提供の方法としては、オープン・キャンパス、大学進学説明会、パンフレット配布等を、また選抜方法としては、書類審査、面接、学力検査、模擬授業、グループ討論等を、さらに教育的支援の方法としては、課題提出・通信添削、学習合宿、補習講座、相談、カウンセリング等、を挙げた。

③評価基準

評価基準の分析に当たっては、学力と学力以外の評価基準に区分した。大学審議会のAO入試の捉え方[4]にならって、学力を受験者の高等学校で身に付けた基礎科目の知識の評価基準と捉え、学力以外の資質・能力を受験者の能力、適性、学習意欲、目的意識等の評価基準と捉えた。

また本研究においては、分析対象を日本の国立大学におけるAO入試に限定した。その理由は、国立大学のAO入試は、教育的視点から高く評価されていることに対し、私立大学は、経営的メリットへ重心が偏っているという指摘が多く[5]、筆者も同様に考えているからである。

4．先行研究のレビュー

AO入試の理念研究としては荒井、橋本等（2005）、渡辺（2007）、中井（2007）の研究が挙げられる。また、2000年の国立大学への導入以降は、『大学入試研究ジャーナル』、『大学入試フォーラム』、『大学教育学会誌』等において、国立大学のAO入試に関する事例研究が相次ぎ公表されている。

渡辺は、AO入試を教育的視点から評価し、AO入試合格者の追跡調査の結果を踏まえ、彼らが高い学習意欲、適性等を有するものの、理科・数学の科目の成績不振という欠点を同時に示しているとの結論を導いている[6)]。

中井は、国公私立大学の全般的なAO入試において二極化が進行していると指摘している。すなわち、「上位」大学における、早期から優秀な学生確保に重点を置いたAO入試と、「下位」大学における、定員の確保に重点をおいたAO入試との区別である。また中井は、国立大学に限定した場合、AO入試を大学全体の教育改善と制度改革の手立てとして捉えている。その事例としては、国立大学の筑波大学と九州大学におけるAO入試の実践が分析されている[7)]。

荒井、橋本等は、大学入試を、高校生の学習目標を大きく規定している一要因として捉えている。つまり、大学入学基準（求める学生像）は、大学の受入方針（アドミッション・ポリシー）において明示され、高校生がそれに向けて努力する。このような観点から、AO入試については、入学基準に関する情報の非公開性、公表されている情報の抽象性といった問題点が提起されている[8)]。

これらの研究により以下のことが明らかにされている。まず、国立大学に限定すれば、AO入試は教育的視点から評価されている（渡辺）。しかし、AO入試において、このような成果を上げるための具体的な入試の実施過程は、各大学の個別事例、あるいは「上位」大学（中井：筑波大学、九州大学）に限定され、その全体的な特徴が明らかにされてない。また、AO入試の機能の理論的なメカニズムが挙げられている（荒井、橋本等）が、その実践においては、アドミッション・ポリシー以外の方法については、分析されていない。

なお、国立大学におけるAO入試の具体的な実施形態・内容に関しては、一連の事例研究[9)]が公表されているが、それらのレビューにおいては、事例の紹介に止まり、データの提示・分析方法の一貫性が欠如し、他の事例に応用することが

困難であるといった限界性が指摘されている[10)]。AO 入試の導入・改善・充実にあたっては、複数の事例の調査を通して、その全体的な特徴を把握し、そこから示唆を得られると考える。

5．調査の方法

本研究においては、「AO 入試学生募集要項」の調査と、事例大学のアドミッション・センターの教職員へのインタビュー調査との２つの調査を実施した。

「AO 入試学生募集要項」の調査においては、AO 入試を実施している各国立大学から「AO 入試学生募集要項」（願書を含む）を請求し、収集した。その中で、研究資料としては、AO 入試日程、募集定員、出願要項、選抜方法等に関わる部分と、出願書類の一部である「自己推薦書」「志願理由書」を用いた。

事例大学のアドミッション・センターの教職員へのインタビュー調査においては、５つの事例大学を選定し、各大学の AO 入試の導入背景・目的・計画化、入試の実施過程の詳細、入試の実施にあたる諸問題と AO 入試の今後の課題についての質問項目を設定し、インタビューした。

以下、それぞれの調査内容である。

(1)「AO 入試学生募集要項」の収集の概要

（ア）調査対象：

2008年度に AO 入試を実施している国立大学の39校を対象とした。

（イ）調査期間：

2007年７月から10月にかけて各大学に「AO 入試学生募集要項」（願書を含む）を請求し、あわせて各大学のホーム・ページ等からデータ収集を行った。

（ウ）収集状況：

調査対象の39校の中で、37校から有効な書類を得られた。収集率は、94.9％である。

(2) インタビュー調査の概要

(ア) 調査対象：

2008年度AO入試を実施している国立大学の5校を対象とした。以降、訪問順により、A大学、B大学、C大学、D大学、E大学と表記する。

(イ) インタビュー対象者：

各大学におけるアドミッション・センターを訪問し、センター長（または、AO入試の実施に当たってセンター内でリーダーシップをとっている専任スタッフ）にインタビューした。インタビューの質問項目を事前に配布し、当日、それを基にインタビューした。

6．調査の結果

AO入試の実施過程において、大学と受験者が、いつ、どのような場面で、どのような形で接するかについては、「AO入試学生募集要項」のほか各大学のホーム・ページ等からデータを把握することができた。

AO入試の実施過程において、大学関与は、オープン・キャンパスや大学進学説明会等の場面で、求める学生像（アドミッション・ポリシー）や大学における教育に関する情報提供から始まる。次に、受験者が、「AO入試学生募集要項」を請求し、出願書類を書き始める時から合格まで、選抜過程が実施されることになる。また、合格後から入学まで入学準備教育を実施する場合は、そのあり方・内容等が「AO入試学生募集要項」の中に掲載されていることから、AO入試の一要素として捉えられる。また本研究では、AO入試による入学者を対象とした教育的支援（学習に関する支援）についても、他の選抜方法による入学者とは区別して実施され、AO入試との一貫性が保持されることから、AO入試の実施過程の一環として捉える。

本研究においては、国立大学における「AO入試学生募集要項」の調査、事例大学におけるAO入試の調査の結果を基に、AO入試の実施過程における共通点を抽出することができた。具体的には、実施主体、実施方法、評価基準という3つの観点から入試過程に着目し、それぞれの共通点を抽出し、入試業務の共通課題により、AO入試の3つの段階を区分することができた。これらの作業によって、

国立大学のAO入試実施過程とそこにおける「大学・受験者」関係については、図2にまとめ、国立大学におけるAO入試の形態（実施主体、実施方法）やその内容（評価基準）の全体的特徴を把握し、表2にまとめた。

(1) 実施主体

AO入試の具体的な実施方法は、各大学に委ねられ、多様であると指摘されてきた。同様に、AO入試の実施主体に関しては、アドミッション・センターと学部・学科が入試を実施し、それぞれの入試業務への関わり方の形態は、大学により多様である。アドミッション・センターと学部・学科との連携については、具体的な内容・方法を本研究のインタビュー調査から明確にすることができた。

インタビュー調査の結果、各大学のアドミッション・センターと学部・学科との連携のあり方は次のような共通点を有していることが明らかとなった。まず、大学の入試の受入方針、主な体制・方法等の入試に関する基本的な事項は、全学の会議においてその大枠が決定される。次に、各学部・学科においては、この大枠の中で、学部・学科の事情、特色等に照らし合わせて入試の具体的な実施体制・

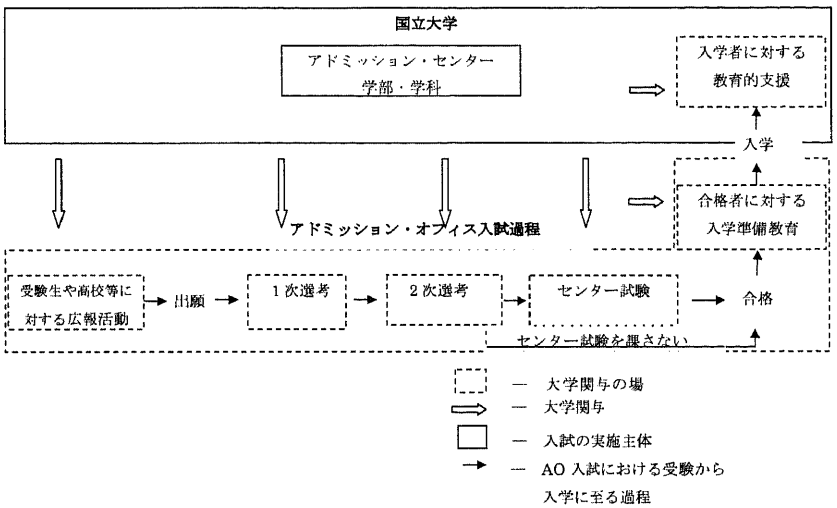

図2　国立大学におけるAO入試過程と「大学・受験者」関係

方法が決定される。

(2) 実施方法

「AO 入試学生募集要項」の調査、各大学のホーム・ページ等から得られたデータにより、AO 入試の実施方法を整理した。この分析の結果については表 2 において実施方法という部分にまとめた。そこでは、共通方法と個別方法に区分することができた。共通方法に関しては、平成12年の大学審議会の AO 入試の見解、つまり「詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接等を組み合わせる（略）きめ細かな選抜方法」[11]に適合するものと捉える。他方、個別方法に関しては、その趣

表 2　AO 入試実施過程の全体的な特徴（実施段階／実施主体・方法・評価基準）

段階／分析項目		情報提供	選抜			教育的支援	
			一次選考	二次選考	センター試験	入学準備教育	入学後の教育的支援
実施主体	直接関与	AC	AC を中心に実施することが多い	基本的に学部・学科を中心に実施	大学入試センター	AC と学部・学科が連携し実施	AC と学部・学科が連携し実施
	間接関与	学部・学科	学部・学科は、会議等を通して関与する	AC は、学部・学科と連携し実施	AC と学部・学科は、扱い方の詳細を決める	AC と学部・学科が連携し実施	AC と学部・学科が連携し実施
実施方法	共通方法	OC、進学説明会	書類審査	面接	センター試験（資格試験としての扱い）	課題提出、（通信）添削	相談・カウンセリング、補習講座の開設
	個別方法	スクーリング、相談等	面接等（地方試験会場で出前面接を実施）	模擬授業、小論文、グループ討論等	センター試験（選抜試験としての扱い）	入学前オリエンテーション、プレースメント・テスト、学習合宿、スクーリング等	リメディアル教育、個別指導、資源提供等
評価の基準※		学力以外	学力以外	学力以外	学力	学力 学力以外	学力 学力以外

※学力、学力以外の資質能力に関する基準のそれぞれを、「学力」「学力以外」と表記した。

旨を事例研究から理解することができる。本研究において、A、B、C、D事例大学（E大学のAO入試の選抜方法は、書類審査と面接の組み合わせからなされており、AO入試の典型的な例である）のAO入試の過程の中では、特に選抜過程に焦点をあてて、それぞれの大学関与の個別方法の特徴を整理することができた（表3、表4、表5）。

これらの事例から窺えるように、大学がAO入試の導入・実施にあたって、独自にオリジナルな選抜方法を開発していることがわかる。それぞれの選抜方法の目的、内容、成果においては、教育的側面と経営的側面に区別することができる。とりわけ、入試過程を（入試自体をひとつの教育プログラムとして捉え）入学準

表3　事例大学におけるAO入試の選抜過程の特徴（A大学）

事例大学	選抜方法の目的	選抜方法の内容・特色	成果
A大学	求める学生の資質・能力（「熱意」「能力」「独創性」）について適切に判定すること。	高校生を対象に、大学教員によるゼミナール（授業）を実施し、そのゼミナールでの受講成績（レポート、個人発表、全体討論等）をもとに合否を判定する。	ゼミナール方式の選抜に関する認知度・関心度、受験意欲の度合いが高まった、高校生等は、学部全体への関心が高まる。

表4　事例大学におけるAO入試の選抜過程の特徴（B大学）

事例大学	選抜方法の目的	選抜方法の内容・特色	成果
B大学	大学の教育プログラムを受けるのに相応しい資質・能力について適切な判定すること（b教授:「このプログラムに必要な力をペーパーテストで測れない。プログラムの説明し、そういう学び方ができるかを確認する」）。	第2次選考： ・講義受けてのレポート、 ・受験者の発表を基にグループ討論、 ・講義及び討論を踏まえ、それに関する小論文の作成、 ・小論文を中心に個人面接	大学と学生とのより良い相互選択ができる（b教授:「AO入試で入るものが、入る学部・学科の教育をまじめに考える。だから、ミスマッチが減る」、「AO入試の形態は宣伝の役割がある。大学の"看板"である」）。

備教育の一環とすること、入試過程において時間を掛けてより丁寧に評価を行うこと、といった取り組みは、入試の教育的側面を強調している。一方で、AO 入試の運営・実施上の制度的特徴を最大限に利用し、マーケットを広げること、大学の宣伝にすること、という取り組みは、入試の経営的側面を表している。

(3) 実施内容

まず、教育的視点から、学力と学力以外の資質・能力に関する基準を区分し、それぞれに対応した評価内容を整理した。この分析の結果については表1において評価の基準という部分にまとめた。また、それぞれの基準に対応した選抜方法の現状を整理した。具体的には、平成12年の大学審議会[12)]の受験生の能力・適性等の多面的な判定の視点をふまえ、学力に関しては、マークシート方式の筆記試験等で測ることができる受験者の教科・科目ごとの学習の達成度として捉える。また、学力以外の資質・能力に関しては、書類審査（志願理由書、自己推薦書、活動暦書等）や面接等で評価される受験者の思考力や表現力、学習意欲、興味・関心、目的意識等として捉える。この分析の結果については表6においてまとめた。

入学準備教育の具体的な実施内容に関しては、問題集等の学習課題を与え、基礎学力や科目知識を向上させること、一方、前年度の合格者のレポート等を用い、

表5　事例大学における AO 入試の選抜過程の特徴（C 大学、D 大学）

事例大学	選抜方法の目的	選抜方法の内容・特色	成果
C大学 D大学	より丁寧な選抜方法を実現すること。受験者の入試へのアクセスを安易にすること。	第1次選考：志願者の全員に対する個人面接を実施。 また、1次選考における地方の入試会場を開設する。 1次選考面接において本大学で学ぶ意欲を問う、不合格者への配慮（c教授：「本大学を嫌いにさせない」、「入試より宣伝」、「自分を試験官ではなく、アドバイス、相談相手と思う」、「落ちたものは、自分の所為で落ちたと分かってもらう」）。	県外からの出願増、（c教授：「出かけていくことでマーケットが広がる」）。高等学校側から好意的な評価が得られた。

表6　AO入試の選抜過程における評価基準と選抜方法

評価基準	選抜方法
学力 （受験者の基礎知識と科目知識）	書類審査（高等学校の調査書、成績証明書） 基礎知識、教科・科目ごとの知識を問う口頭試問（面接） 小テスト等の大学個別の学力検査 大学入試センター試験（選抜試験、又は資格試験としての扱い） 資格取得（英検・TOEFL、日商簿記検定試験等）
学力以外の資質能力 （受験者の能力・適性、学習意欲・動機、興味・関心、目的意識等）	書類審査（志願理由書、自己推薦、活動暦等） 個人・団体面接 講義受けてのレポート、 課題レポート 小論文、 グループ討論、ディスカッション 模擬授業等

自主的な学習や研究活動のモチベーションを高め、動機付けるという二つの方向性がインタビュー調査から窺えた。換言すれば、学力の向上という方向性と、学力以外の資質・能力の向上という方向性である。

入学後の教育的支援に関しては、その有無をめぐる議論や具体的な実施方法・内容の開発が端緒についたばかりの段階にあると言えよう。インタビューの内容から窺えるように、入学後の教育的支援においては、二つの方向性が見られる。すなわち、精神的な不安やさまざまな問題を解消するために、相談等の方法で実施される精神的サポートの方向性と、学力低下の対策、基礎学力や科目知識の向上のため、リメディアル教育の講座開設等の方法で実施される学習に関する支援の方向性である。

7．まとめ

AO入試の実施過程を教育的視点に着目し、その過程における各段階の教育的機能については、以下のようにまとめることができる。すなわち、①情報提供の段階と、②選抜の段階においては、大学と受験者とのより良い相互選択が保障される。また、③教育的支援の段階においては、高校から大学への円滑な移行及び大学教育への適応の機能が果たされていることである。

また、各調査で得られたデータをもとに、AO入試の各段階における主な教育的

表7　AO 入試の各段階の教育的機能

AO 入試の段階	教育的機能
情報提供の段階	求める学生像や大学教育についての情報提供、高校生の進路指導
選抜の段階	大学教育を受けるのにふさわしい資質・能力の判定
①一次選考	学力以外の資質能力の評価
②二次選考	より深くみて、多面的かつ総合的に評価する
③センター試験	入学後の教育を受けるのに必要な学力の確保
教育的支援の段階	合格者（入学者）の学習に関する支援・動機付け
①入学準備教育	学力確保、精神的サポート
②入学後の教育的支援	学力不足の補完、精神的サポート

機能については、さらに具体的に整理することができた（表7）。

これらのデータからわかるように、冒頭で述べた学力確保の課題にあたって、センター試験とともに、教育的支援の段階の役割が特に重要となってくる。その際、今後の課題としては、入学準備教育と入学後の教育的支援の具体的なあり方を、教育的視点からさらに検討する必要があると考える。具体的にいえば、教育的支援の段階においては、AO 入試の早期化という制度的特徴によって合格発表から大学入学までの期間が長くなり、合格者はその期間をどのように過ごすかが重要な課題として挙げられる。そこで、特に学力検査を課さない AO 入試の場合は、その合格者の学力低下が懸念される。同時にまた、インタビュー調査のデータから（特に、入学準備教育を実施しない E 大学の事例）、AO 入試における選抜方法の特徴が、各受験者が自分でアピールした個性を評価する点にあることより、合格から大学入学までの期間を活用し、受験者のアピールした個性をさらに成長させる課題も挙げられる。このような課題に対しては、教育的支援の段階においては、通信課題添削、学習合宿イベント等の方法を用い、入学準備教育が実施され、補習講座（リメディアル教育）、相談・カウンセリング等の方法を用い、入学後の教育的支援を行うという方策も考えられる。

なお、C 大学の教育的支援の事例における大学側の AO 合格者に対する働きかけは、プレースメント・テスト等を通じ、自分の学力レベルを自覚させることにより自主的な学習への動機付けとなったことが興味深い。また、E 大学のアドミッション・センターの下で実施された AO 入試合格者の意識調査のデータによ

れば、受験勉強をしなくても自主的活動ができるという反面、入学後の大学教育についていけない不安があるということもわかった。このような事例のデータを踏まえ、教育的支援の段階においては、AO 入試合格者の自主性を十分に生かすためには、自主的学習・研究の方針や入学後の教育の具体的な内容を示すこと、つまりオリエンテーションの役割が必要であると指摘することができる。

今後さらに、AO 入試合格者の学力確保の課題の解明にあたっては、各大学の入試過程における教育的支援の実践に焦点を当て、その具体的な実施方法・内容を教育的視点から分析する必要がある。

注

1）荒井克弘、橋本昭彦（編著）『高校と大学の接続―入試選抜から教育接続へ―』玉川大学出版部、2005、pp.41-50。
2）荒井克弘、橋本昭彦（2005）、前掲書、p.208。
3）荒井克弘、橋本昭彦（2005）、前掲書、p.211。
4）大学審議会答申「大学入試の改善について」文部科学省、2000。
5）荒井克弘、橋本昭彦（2005）、前掲書、p.211。また、中井浩一『大学入試の戦後史』中央公論新社、2007、p.131。
6）渡辺哲司「AO 入試のこころ」、山田耕路、渡辺哲司『大学歳時記』、海鳥社、2007、pp.206-226。
7）中井浩一（2007）、前掲書、pp.133-148。
8）荒井克弘、橋本昭彦(2005)、前掲書、pp.45-51。
9）例えば、
大嶋知之、佐巻健男「アドミッション・オフィス（AO）入試からみえるもの―京都工芸繊維大学ダビンチ入試を実施して―」大学入試研究ジャーナル、13号、2003、pp.102-103。
白川友紀「入学者選抜について」筑波フォーラム、73号、2006、p.140-144。
大作　勝、佐藤博志、南部広孝「長崎大学における AO 入試の現状と課題」『大学入試研究ジャーナル』14号、2004、pp.175-183。
坪井ひろみ「AO 入試実施状況に関する報告」秋田大学工学資源学部研究報告、第27号、2006年、10月、pp.33-34。
林寛子、富永倫彦「山口大学 AO 入試入学者の受験準備と入学準備」『大学教育』、第 4 号、2007、pp.85-86。
山岸みどり「北海道大学 AO 入試の現状」『物理教育』第50巻、第 5 号、2002、p.312。

渡辺哲司、武谷峻一「九州大学 AO 選抜合格者の特性―入学後半年間の変化―」大学入試研究ジャーナル、12号、pp.36-37。
等が挙げられる。

10) 渡辺哲司、「国立大 AO 入試による入学者の特性」大学教育学会『大学教育学会誌』第28巻第 1 号2006、p.114。
11) 大学審議会答申、前掲書。
12) 大学審議会答申、前掲書。

Execution Process and General Characteristics of "Admission Office" Entrance Examination in National Universities of Japan
—Focusing on Educational Point of View—

DEMEZHAN Adlet

The purpose of this research is to clarify from the educational viewpoint the general characteristics of "Admission Office" entrance examination, based on the practice in National Universities of Japan. Concretely, the formal procedure and contents of "Admission Office" entrance examination were generalized, and the common points were tried to extract.

The university contacts the applicants with the various scenes over the long-term process of "Admission Office" entrance examination, has deep influence on their studies during admission process. Therefore, the "Admission Office" entrance examinations process constructed by this "university-applicant" relationship is analyzed in educational point of view, aiming to achieve research purpose. ① Admission Agent, ② Admission Method, ③ Evaluation Criteria were set as analysis item.

Based on result of this analysis, the three stage of admission process was clarified: Stage of information offer, Stage of selection and Stage of educational support. It is possible to draw a conclusion that the general aim on the Stage of information offer and the Stage of selection is the better mutual selection between universities and applicants. The general aim on the Stage of educational support is smooth transfer from high school to university and the function of adaptation to the study in university.